

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和 6年 2月 28日

事業所名 放課後等デイサービス ジョバンニの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	3	人数が多い日は、2グループに分けて活動を行うようにしている。体を動かすプログラムの日は近隣の公園を利用している。	活動スペースに限りがある為、事業所内の空いている部屋を使用したり近隣の公共施設を活用し場所の確保を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	12		人員基準の職員数は配置されている。	今後も人員配置のとらわれず、職員の増員拡大を継続する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリーの配慮が適切になされている	7	5	事業所が2階にあり階段で上がる為バリアフリーではないが手すりや滑り止めなどを設置している。	現時点での利用児童に身体障害児はいないが、今後のために事業所内のバリアフリー化を推進していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11	1	令和5年1月よりSDGs企業認証を受けている。	今後も一層のPDCAサイクルを推進する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		季節ごとに保護者会を開催し、その都度意見や要望を伺い対応している。	アンケートも実施しているが、定期的に保護者会を開催した際に意見を頂き、支援に生かしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12		事業所内及びHPに掲載している。	今後も継続していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11	1	顧問弁護士、行政書士、税理士等による第三委員会を開催している。	第三者委員会での課題及びその内容を一層分かりやすく広報する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12		スキルアップのため、研修の情報を周知し、積極的に外部研修にも参加している。	今後様々な研修に参加し、知識を身につけ職員全体での共有を行っていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12		担当者会議やモニタリング、面談での情報をもとに現在の課題や要望を把握し、半年ごとに放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も継続していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12		職員研修会でのアセスメント講座の開催や専門職員によるアセスメント指導を行っている。	今後も継続していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	12		自発管を中心に毎月行事についても会議を開催している。	多職種による活動プログラムの立案を行い、多様な内容のものになるよう計画を立てている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12		インターネットの情報を活用したり、児童の要望も踏まえ、平日の活動も週替わりで内容を変え工夫している。	今後も継続していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12		活動プログラムのねらいや一日に流れなどを書面化し、職員全体で共有できるようにしている。	今後も継続していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12		その日の体調や天候により予定を変更する場合もあるため、臨機応変に対応できるように計画している。	今後も柔軟な視点で活動を立案、実施していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12		毎朝職員間でのミーティングを行い、来所児童や活動についての打ち合わせをし確認を行っている。午後から出勤の職員には出勤時に伝達して	伝達間違いがないように連絡ノートを活用していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	2	連絡事項があった際には、記録に詳細を残し出勤時に確認できるようにしている。	自宅への送迎児童が多く、職員の退勤時間もある為全員での共有は難しいが携帯電話での連絡手段を活用している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12		職員間でダブルチェックでの間違い防止を徹底している。	今後も継続していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12		月に一度支援会議を行い、児童のモニタリングをしている。相談支援事業所とも連携し情報の共有をするとともに計画の見直しも行っている。	今後も継続していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	12		総則基本活動を偏ることなく複合して実践している。	今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12		管理者、児発管、看護職員、日々支援している職員が参加している。	今後も継続していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	12		送迎時に遅れるなどのトラブルが発生した場合や下校時間が早くなった場合などは、学校または担任の先生と連絡をとりあっている。担当者会議等も学校で開催して頂くケースも	今後も継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	12		保護者を通し、病院と連携を図れるよう体制を整えている。協力医療機関や看護師の配置あり。	今後も継続していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10	2		利用開始前に保育園や幼稚園等へ連絡を取り、様子や苦手なことを把握しておく必要があるため連携会議を開催して情報の共有を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	12		卒業により就労継続支援等に移行する場合は会議に参加させていただき情報の共有や引き継ぎを行っている。	今後も継続していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	1	研修会には積極的に参加している。	今後も継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10	2	イベントの近所の子どもたちを招待し、活動を共にする機会を設けている。	今後も継続していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	10	2	現時点で参加できていない。	今後可能な限り参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12		保護者の方と電話やLINE、ご利用記録を使用し、日々の様子を連絡しあい状況や課題について認識している。	今後も継続していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	11	1	3~4か月に一度保護者会を開催しており、保護者の方に外部の講師を招いた講習会に参加していただいている。	今後も継続していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12		契約時に詳細の説明を行い、了承を得ている。	今後も継続していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12		面談や保護者会の際にも話をする時間を作り、悩みの相談内容に応じて適切な職員が対応するようにしている。	今後も積極的に継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12		季節ごとに保護者会を開催し、保護者同士の交流の場にもなっている。	今後も継続していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12		苦情相談窓口を事業所内に設置している。また外部相談窓口も契約の際にお知らせしている。	今後も継続していく。苦情があった場合は保護者へ周知する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12		毎月行事内容や活動の様子の写真を記載したおたよりを配布している。週に一度Facebookにも活動の様子を更新している。	今後も継続していく。
	35	個人情報に十分注意している	12		Facebookで活動の様子や内容を公開しているため、名前の映り込みがないか等留意している。また個人の記録に関してカギのある場所に保管	今後も継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12		来所前日に持ち物や送迎時間の誤りがないか等確認の連絡を行い、保護者の方と頻りに連絡を取り合うようにしている。	口頭や書面など、児童一人ひとりに合わせた対応を行い、分かりやすい方法で知らせている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12		地域の行事に参加し、事業所内でのイベント地域の方を招いている。	今後も継続していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	1	感染症対策は看護師が主体となり、他職員へ嘔吐や感染症等の対応の仕方についてレクチャーしている。	今後防犯マニュアルの充実が必要。防犯についての研修を行い、知識を身につける。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12		毎月1回避難訓練を行い、様々な災害の想定をもとに避難にかかった時間を図り次の訓練に生かしている。	今後も継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12		職員研修にて虐待防止について職員が学ぶ時間を設けている。	今後も継続していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	12		現時点まで身体拘束を行うことはない。	事業作成のガイドラインに遵守する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12		アレルギーがある児童に関しては調理の職員を含め情報共有し、細心の注意を心掛けている。除去食の提供を行っている。	定期的に提携医療機関からの指導を今後も継続的に得て運営する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		ヒヤリハット報告書を作成しており、職員間で共有している。また、その日にあった出来事はグループツールで確認できるようにしている。	今後も継続していく。